



武蔵野

学校だより NO. 9
平成30年12月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 岡部 操

年の瀬

副校長 川上卓哉

11月17日(土)の芸術祭には多数の保護者の皆様に参観をいただき、ありがとうございました。体育館での音楽発表では、子供たち一人一人が輝き、学年学級集団としても成長している様子を見ていただけたのではないかと思います。また、1階での図工平面作品の展示でも子供たちが創意工夫を凝らした作品を見ていただけたのではないかと思います。

近いうちに図工の作品返却がありますが、持ち帰りましたらぜひ、ご家庭でも飾ってください。私の実家にも小学校で作成した作品が今でも飾られています。子供の頃はあまり感じませんでした。成長するにつれて当時の自分を思い出すのと同時に、このように作品を大事に飾ってくれて見守り育ててくれた家族への感謝の気持ちが湧いてきました。ぜひ、大事にしていだければと思います。

さて、いよいよ12月となり、平成30年も残り少なくなりました。学校は年度が区切りとなっていますので、1年の終わりは3月となります。しかし、やはり暦の12月は1年の区切りとして、身の引き締まるような何か特別な気持ちがあります。特に今年は「平成」最後の12月となるので、時代の一区切りのような、さみしい気持ちにもなります。

12月でも後半を表す言葉は様々で「暮れ」「年末」「歳末」等とされていますが、「年の瀬」とも言います。前者三つの言葉は何となく「年の終わり」というような意味が伝わってきますが、「年の瀬」はどうしてそのように言われるのでしょうか。

「年の瀬」の意味を調べてみたところ、まず「瀬」とは川の岸に近く浅くて流れが速い箇所、急流のために船の航行が危険で難しいところとの意味があります。現在の川はダムで水流をコントロールされ、護岸もされているので「川の瀬」に危険なイメージはもちにくいかもかもしれません。昔の川は水量も多く、護岸もされていないためとても危険でした。

また、江戸時代には商品の取引を「ツケ」といってその場で支払いせずに帳簿に記録してもらい、後で支払うことが一般的でした。年末はその「ツケ」を清算する時期でもありましたし、同時に新年を迎えるための準備でお金が必要な時期でもありました。そこから、「ツケ」を清算し新年に備えなければならぬ大変な時期、という意味で「年の瀬」といわれるようになったそうです。

もちろん諸説ありますが、「年の瀬」という何とも穏やかな印象の言葉からかけ離れた意味で、とても興味深く思いました。

さて、子供たちも年の初めに目標や抱負、計画等をたてているかと思いますが、達成できているのでしょうか。「年の瀬」を前に子供たちと一緒に今年を振り返ってみてください。そしてもし、達成されていないものがありましたら、少しでもこの12月に「ツケ」を清算して、晴れやかな気持ちで新年を迎えていただければと思います。私も「年の瀬」を乗り切るべく、たまりにたまった「ツケ」の清算に努めます。